

令和2年度事業報告



日本赤十字社山梨県支部

目 次

I 支部事業について

- 1 救援活動について 1
- 2 赤十字講習の普及状況について..... 3
- 3 赤十字ボランティアの活動状況について..... 5
- 4 青少年赤十字の活動状況について..... 9
- 5 献血事業について..... 1 4
- 6 赤十字社旨普及活動について..... 1 5

II 施設事業

- 1 山梨赤十字病院..... 1 6
- 2 山梨県赤十字血液センター..... 1 9

I 支部事業について

1 救援活動について

(1) 災害救護活動

○令和2年度救護員等の派遣要請は無し

(2) 臨時救護活動

・護国神社例大祭 2日 救護員 4名

(3) 義援金・救援金

ア 義援金

義 援 金 名 称	件 数	金 額
東日本大震災義援金	15件	1,077,214円
平成28年熊本地震災害義援金	6件	121,763円
平成29年7月5日からの大雨災害義援金	2件	40,952円
平成30年7月豪雨災害義援金	14件	107,751円
令和元年台風第15号千葉県災害義援金	45件	3,712,017円
令和元年台風第19号災害義援金	14件	275,446円
令和2年7月豪雨災害義援金	153件	14,953,904円
令和3年2月福島県沖地震災害義援金	3件	45,789円
合 計	252件	20,334,836円

○受付が終了した義援金

- ① 東日本大震災義援金(令和3年3月31日受付終了)
- ② 平成28年熊本地震災害義援金(令和3年3月31日受付終了)
- ③ 平成29年7月5日からの大雨災害義援金(令和3年3月31日受付終了)
- ④ 令和元年台風第15号千葉県災害義援金(令和2年6月30日受付終了)
- ⑤ 令和元年台風第19号災害義援金(令和3年3月31日受付終了)

イ 救援金等

救 援 金 等 名 称	件 数	金 額
NHK 海外たすけあい	417件	7,423,685円

(4) 救援物資配分並びに備蓄状況(令和3年3月31日)

品名	配分数	備蓄数	備考
毛布	22枚	5,670枚	
緊急セット	10個	889個	
安眠セット	0個	517個	

*上記以外に地区分区(市町村)に毛布2,650枚、緊急セット360個の備蓄があります。

(5) 参加訓練・研修会

月日	行事	会場	参加者数
6月8日	山梨県災害対策本部総合図上訓練	Web会議	災害対策本部要員 2
11月15日	甲府市総合防災訓練	甲府市立相川小学校	縮小開催の意向により不参加
11月22日	山梨県地震防災訓練	富士川町立鵜沢小中学校	防災ボランティア 2 災害対策本部要員 3
12月5日	第2ブロック支部災害救護訓練 (新潟県支部担当)	Web会議	災害対策本部要員 3
2月22日	第2ブロック支部日赤災害医療 コーディネーター連絡会 (東京都支部担当)	Web会議	災害対策本部要員 2 コーディネーター 2 コーディネートスタッフ 5
3月5日	第2ブロック支部被災地支部災害対策本部運営訓練 (栃木県支部担当)	Web会議	災害対策本部要員 2

(6) 赤十字奉仕団員等災害救護訓練

日程	10月8日	10月15日	10月28日	10月29日	合計
地区名	峡南地域	富士・東部地域	中北地域	峡東地域	
会場	富士川町民会館	富士河口湖町民体育館	南アルプス市健康福祉センター	若彦路ふれあいスポーツ館	
奉仕団員	20	29	15	27	86
地区分区職員	10	13	11	6	40
指導者	5	7	6	5	23
合計	35	49	32	38	149

(7) 救護員養成

日本赤十字看護大学

	1学年	2学年	3学年	4学年	合 計
在 student 数	4	3	1	1	9

(8) 日本赤十字社看護師同方会山梨県支部

会員数 206名 顧問 茂手木 崑美代 " 保 延 登芽子 " 駒 田 元 子 " 吉 原 美 幸 " 今 野 述 会 長 岡 本 理 恵 副会長 清 水 邦 子 " 渡 辺 久 子	○年間活動 ・総 会 新型コロナウイルス感染症の感染 拡大防止のため、文書審議 ・役員会の開催 ・山梨県護国神社例大祭での救護所開設(春・秋) ・支部主催事業への協力 ・県市町村等関係行事への協力
---	--

2 赤十字講習の普及状況について

講習実施状況

区 分	短期講習		養成講習		合 計	
	実施回数	受講者数	実施回数	受講者数	実施回数	受講者数
救急法基礎			8	134	8	134
救 急 法	77	1,988			77	1,988
水上安全法						
雪上安全法						
幼児安全法	1	15			1	15
健康生活支援講習						
防災啓発プログラム						
合 計	78	2,003	8	134	86	2,137

※本社指示(新型コロナウイルス感染症感染拡大防止策)により、上半期の講習は全て中止としました。

下半期については、本社暫定措置内容に基づき一部再開し実施いたしました。

(1)救急法(指導員数93名)

○救急法基礎講習

主催	月日	会場	受講者数
山梨県歯科衛生専門学校	10月26日	山梨県歯科衛生専門学校	46
山梨赤十字病院	10月29日	山梨赤十字病院	11
日本赤十字社山梨県支部	11月12日	山梨赤十字会館	2
富士吉田市看護専門学校	11月5日	富士吉田市看護専門学校	35
日本赤十字社山梨県支部	1月9日	山梨赤十字会館	10
帝京福祉専門学校	2月17日	帝京福祉専門学校	13
日本赤十字社山梨県支部	2月20日	山梨赤十字会館	9
日本赤十字社山梨県支部	3月27日	山梨赤十字会館	8

※本社通知に基づき暫定措置内容にて実施

○救急法救急員養成講習

主催	月日	会場	受講者数
日本赤十字社山梨県支部	6月3日 ～5日	中止(新型コロナウイルス感染症感染防止のため)	
日本赤十字社山梨県支部	7月29日 ～31日	中止(新型コロナウイルス感染症感染防止のため)	
日本赤十字社山梨県支部	8月13日 ～15日	中止(新型コロナウイルス感染症感染防止のため)	
日本赤十字社山梨県支部	9月28日 ～30日	中止(新型コロナウイルス感染症感染防止のため)	
日本赤十字社山梨県支部	11月12日 ～14日	中止(新型コロナウイルス感染症感染防止のため)	

(2)水上安全法(指導員数5名)

○水上安全法救助員養成講習 I

主催	月日	会場	受講者数
日本赤十字社山梨県支部	7月8日 ～10日	中止(新型コロナウイルス感染症感染防止のため)	

(3) 幼児安全法(指導員18名)

○幼児安全法支援員養成講習

主催	月日	会場	受講者数
日本赤十字社山梨県支部	8月27日 ～28日	中止 (新型コロナウイルス感染症感染防止のため)	
日本赤十字社山梨県支部	11月9日 ～10日	中止 (新型コロナウイルス感染症感染防止のため)	

(4) 健康生活支援講習(指導員7名)

○健康生活支援講習支援員養成講習

主催	月日	会場	受講者数
日本赤十字社山梨県支部	7月3日・7日	中止 (新型コロナウイルス感染症感染防止のため)	

○災害時高齢者生活支援講習

主催	月日	会場	受講者数
日本赤十字社山梨県支部	6月26日	中止 (新型コロナウイルス感染症感染防止のため)	
日本赤十字社山梨県支部	8月18日	中止 (新型コロナウイルス感染症感染防止のため)	

○健康生活支援講習短期講習(介護教室)

主催	月日	会場	受講者数
日本赤十字社山梨県支部	10月9日	中止 (新型コロナウイルス感染症感染防止のため)	

(5) 防災教育セミナー(指導者2名)

主催	月日	会場	受講者数
山梨県立男女共同参画推進センター ぴゅあ峡南	9月26日	ぴゅあ峡南	18

3 赤十字ボランティアの活動状況について

(1) 地域赤十字奉仕団(5,468人:令和3年3月31日現在)

(単位:名)

月日	行事	会場	参加者数
8月	赤十字奉仕団山梨県支部委員会	書面開催	—
8月	日本赤十字社第2ブロック赤十字奉仕団 委員長・支部担当課長会議(山梨県支部担当)	書面開催	—
10月 8日	赤十字奉仕団等災害救護訓練(峡南地域)	富士川町民会館	15

10月15日	赤十字奉仕団等災害救護訓練(富士・東部地域)	河口湖町民体育館	29
10月28日	赤十字奉仕団等災害救護訓練(中北地域)	南アルプス市健康福祉センター	15
10月29日	赤十字奉仕団等災害救護訓練(峡東地域)	若彦路ふれあいスポーツ館	27
12月 3日	赤十字奉仕団中央委員会	山梨赤十字会館(Web 会議)	1
3月10日	赤十字奉仕団委員長研修会	山梨赤十字会館	29

移動献血バスに対する奉仕活動

地区・分区	回数	参加者数	地区・分区	回数	参加者数
甲 府 市	2	6	早 川 町	-	-
富 士 吉 田 市	2	8	身 延 町	3	16
都 留 市	2	6	南 部 町	2	4
山 梨 市	3	15	富 士 川 町	4	12
大 月 市	2	4	昭 和 町	3	16
韮 崎 市	3	6	道 志 村	2	6
南アルプス市	9	30	西 桂 町	2	6
北 杜 市	10	13	忍 野 村	1	3
甲 斐 市	5	19	山 中 湖 村	2	4
笛 吹 市	4	18	鳴 沢 村	-	-
上 野 原 市	2	8	富 士 河 口 湖 町	-	-
甲 州 市	3	16	小 菅 村	-	-
中 央 市	6	18	丹 波 山 村	1	2
市 川 三 郷 町	3	14	計	76	250

(2) 青年赤十字奉仕団(6名:令和3年3月31日現在)

月 日	行 事	会 場	参加者数
6月4日	役員会・総会	山梨赤十字会館	4
6月27日	第2ブロック支部青年奉仕団連絡協議会(第1回) (東京都支部担当)	山梨赤十字会館(Web 会議)	2
8月19日	第1回定例会	Web 会議	5
10月25日	第2ブロック支部青年奉仕団連絡協議会(第2回) (東京都支部担当)	山梨赤十字会館(Web 会議)	3
11月 16日	第2回定例会	Web 会議	4
12月12日	NHK 海外たすけあい募金活動	甲府駅前	5
12月22日	青年奉仕団の活動紹介動画撮影(編集作業)	山梨赤十字会館	4

1月8日	青年奉仕団の活動紹介動画撮影(編集作業)	山梨赤十字会館	5
2月8日	青年奉仕団の活動紹介動画撮影(編集作業) 赤十字 NEWS 新聞折り込み作業	山梨赤十字会館	5
3月8日	青年奉仕団の活動紹介編集作業・役員会	山梨赤十字会館	5
3月10日	赤十字奉仕団委員長研修会	山梨赤十字会館	1

■定例会 随時

(3)特殊赤十字奉仕団

ア 無線赤十字奉仕団(27名:令和3年3月31日現在)

月日	行事	会場	参加者数
4月4日	総会	中止(新型コロナウイルス感染症感染防止のため)	
4月4日	信玄公祭りボランティア	中止(新型コロナウイルス感染症感染防止のため)	
10月8日	赤十字奉仕団等災害救護訓練	富士川町民会館	5
10月25日	非常無線通信訓練(新潟県)	団員自宅	1
10月25日	非常無線通信訓練(兵庫県)	団員自宅	1
12月5日	非常無線通信訓練(栃木県)	団員自宅	1
1月9日	非常無線通信訓練(鹿児島県)	団員自宅	1
3月10日	赤十字奉仕団委員長研修会	山梨赤十字会館	1

イ 安全赤十字奉仕団(48名:令和3年3月31日現在)

月日	行事	会場	参加者数
4月5日	総会・団員研修会	中止(新型コロナウイルス感染症感染防止のため)	
3月10日	赤十字奉仕団委員長研修会	山梨赤十字会館	1
4月～3月	ヴァンフォーレ甲府ホームゲーム救護 武田の杜トレイルランニングレース救護	中止(新型コロナウイルス感染症感染防止のため)	

ウ 救護赤十字奉仕団(28名:令和3年3月31日現在)

月日	行事	会場	参加者数
4月4日	総会	中止(新型コロナウイルス感染症感染防止のため)	
9月6日	柔道大会救護活動1	小瀬武道館	1
10月11日	柔道大会救護活動2	小瀬武道館	1
10月17日	柔道大会救護活動3	小瀬武道館	1
10月24日	柔道大会救護活動4	小瀬武道館	1
10月25日	柔道大会救護活動5	石和清流館	1
11月15日	柔道大会救護活動6	小瀬武道館	1
11月16日	柔道大会救護活動7	小瀬武道館	1

11月22日	柔道大会救護活動8	小瀬武道館	1
11月22日	山梨県地震防災訓練	鯉沢小中学校	4
12月 6日	柔道大会救護活動9	学院大樹徳館	1
1月10日	柔道大会救護活動10	小瀬武道館	2
1月16日	柔道大会救護活動11	小瀬武道館	2
1月17日	柔道大会救護活動12	小瀬武道館	2
2月14日	柔道大会救護活動13	小瀬武道館	2
3月10日	赤十字奉仕団委員長研修会	山梨赤十字会館	1
3月14日	柔道大会救護活動14	小瀬武道館	2

エ 赤十字救援バイクV・Sやまなし(123名:令和3年3月31日現在)

月 日	行 事	会 場	参加者数
4月24日	総会	文書審議	
3月10日	赤十字奉仕団委員長研修会	山梨赤十字会館	1

オ 青少年赤十字賛助奉仕団(23名:令和3年3月31日現在)

月 日	行 事	会 場	参加者数
6月 4日	総会	山梨赤十字会館	6
7月 3日	役員会	山梨赤十字会館	4
9月23日	役員会	山梨赤十字会館	5
11月24日	全国青少年赤十字賛助奉仕団協議会総会	文書審議	1
10月 8日	赤十字奉仕団等災害救護訓練	富士川町民会館	2
10月15日	赤十字奉仕団等災害救護訓練	富士河口湖町民体育館	4
10月26日	第2ブロック研究協議会(山梨県担当)	情報交換結果郵送	1
10月28日	赤十字奉仕団等災害救護訓練	南アルプス市健康福祉センター	3
10月29日	赤十字奉仕団員等災害救護訓練	若彦治ふれあいスポーツ体育館	3
11月22日	青少年赤十字研究指定公開研究会	早川中・早川北小・早川南小	2
2月 4日	青少年赤十字メンバー表彰式	県立図書館	3
3月 5日	全国青少年赤十字賛助奉仕団協議会役員会	Web 会議	1
3月10日	赤十字奉仕団委員長研修会	山梨赤十字会館	1

カ 拡大写本赤十字奉仕団(26名:令和3年3月31日現在)

月 日	行 事	会 場	参加者数
4月 6日	総会	中止	
3月16日	教科書納入 国語	山梨赤十字会館	1
3月23日	教科書納入 国語	山梨赤十字会館	1

3月30日	教科書納入 国語・算数・道徳	山梨赤十字会館	1
-------	----------------	---------	---

- 活動日 毎週月曜日 (絵本作成班) (国語5年作成班)
 毎週火曜日 (国語1年作成班)
 毎週水曜日 (道徳等作成班)

(4) 個人ボランティア(令和3年3月31日現在)

ア 防災ボランティア(個人登録30名・団体登録5団体:251名)

イ 防災ボランティアリーダー(11名)

ウ 防災教育指導者(5名)

月 日	行 事	会 場	参加者数
9月25日	防災教育事業主任指導者研修	Web 会議	2
9月26日	山梨県支部防災セミナー	びゅあ峡南	2
12月7日	甲斐市赤十字奉仕団員研修会	甲斐市敷島保健福祉センター	中止
1月16日	防災ボランティアリーダー研修会	Web 会議	1

エ 病院ボランティア(8人:令和3年3月31日現在)

月 日	行 事	会 場	活動日数
4月～3月	初診外来に来られた方への案内等	山梨赤十字病院	5

(5) 赤十字奉仕団指導講師(10人:令和3年3月31日現在)

月 日	行 事	会 場	参加者数
3月10日	赤十字奉仕団委員長研修会	山梨赤十字会館	1

4 青少年赤十字の活動状況について

(1) 活動状況

月 日	行 事	会 場	参加者数
4月～7月	新規加盟案内 加盟登録式は中止	各校(園・所)	
4月14日	青少年赤十字指導者協議会総会文書審議	山梨赤十字会館	指導者
5月 日	高校生協議会中止	山梨赤十字会館	メンバー 指導者

5月 日 ～日	リーダーシップトレーニングセンター 指導者養成講習会オリパラのため休止	国立オリンピックセンター	指導者	
7月 日	青少年赤十字担当者会議(高校・青奉) 中止	山梨赤十字会館	指導者	
7月 日	青少年赤十字担当者会議(小・中・青奉) 中止	山梨赤十字会館	指導者	
8月 6日 ～ 7日	青少年赤十字リーダー養成トレーニング センター(高等学校)中止	県立愛宕山自然の家	高メンバー 指導者	
8月11日 ～ 12日	青少年赤十字リーダー養成トレーニング センター(小学校・中学校)中止	県立愛宕山自然の家	小メンバー 中メンバー 指導者	
8月3日 ～5日	高校生対象救急法講習会中止	山梨赤十字会館	高校生	
8月4日	山梨県こども赤十字祭り役員会議	山梨赤十字会館	指導者	3
8月17日	2B 青少年赤十字指導者協議会総会・研 究集会書面開催	日本赤十字社 各支部	指導者	
9月 11日	全国指導者協議会総会・研修会 WEB 会 議	日本赤十字社 山梨県支部	指導者	1
10月21日	第8回山梨県こども赤十字祭り中止	県立図書館	メンバー 指導者	
10月30日	青少年赤十字高校生活動実践発表会	山梨赤十字会館	メンバー 指導者	16 8
11月 15日	令和2年度青少年赤十字国際交流事業	都留興譲館高校	メンバー 指導者	9 2
11月25日	青少年赤十字活動研究指定公開研究会	早川南小・早川北小・早 川中	参観者	23
11月 日	青少年赤十字指導者中央講習会中止	日本赤十字社本社	指導者	
12月 1日	NHK海外たすけあい オープニングセレモニー中止	NHK甲府放送局	メンバー 指導者	
1月8日	指導主事対象青少年赤十字研究会 WEB 会議	日本赤十字社山梨県支 部	指導主事	1
2月 4日	青少年赤十字メンバー表彰式	山梨県立図書館	メンバー 指導者	30 27
2月12日	幼稚園・保育所(園)・認定こども園対象 青少年赤十字研修会	山梨赤十字会館	指導者	17

3月20日	青少年赤十字スタディーセンターWEB 開催	メンバー自宅 指導者自宅	高校生 指導者	1 1
3月29日～ 31日	高校生対象救急法講習会 中止	山梨赤十字会館	高校生	

(2) 青少年赤十字活動実践推進校・推進園

1	和泉愛児園	自然の中で心と体づくり
2	すみよし愛児園	緑化活動や炊き出し訓練などを通じて、人と人とのつながりを感じ、感謝する心や奉仕する心を育む
3	みかさこども園	花や野菜を育てて優しさや思いやりの心を育む
4	押原こども園	色々な命に出会う（植物、動物）命を大切にする
5	相川小学校	気づき、考え、自ら行動する児童の育成
6	大国小学校	主体的に行動する児童の育成
7	甲運小学校	笑顔満開 今こそ絆を深めよう
8	国母小学校	輪気合愛な国母小 輪になって取り組む国母の子
9	羽黒小学校	心を合わせて 飛び立つ 羽黒の子
10	善誘館小学校	善誘館小や朝気ふれあい公園をきれいにする活動
11	武川小学校	思いやりの心を育み実践に生かそう
12	早川南小学校	自ら学び、生き生きと活動する児童の育成
13	敷島南小学校	美しい敷島南小学校にしよう
14	芦安小学校	「郷土を愛する心と夢を育み、未来を拓く人づくり」と考え各行事を実践
15	後屋敷小学校	心身ともに健康で 人間性豊かな たくましい子ども育成
16	山梨小学校	人間性豊かに心身ともに健康で、たくましく生きる児童の育成
17	日下部小学校	自ら学び、心豊かで、たくましく意欲的に考え、進んで活動できる児童
18	八幡小学校	がんばっている自分に誇りの持てる子
19	岩手小学校	豊かな心・確かな学力・健やか体 ⁹ を育むための指導の工夫
20	井尻小学校	気づき、考え、実行する児童の育成
21	菱山小学校	小規模校のよさを生かした奉仕と親善の精神を育成する
22	東雲小学校	集い・学び・進む学園
23	松里小学校	地域の特色を生かした青少年赤十字活動
24	甲府南中学校	気づき考え実行する生徒の育成
25	上条中学校	光合成～上条の”木”を育てよう～
26	八田中学校	環境美化奉仕作業を通して生徒の心を育てる 感謝の心を持つ
27	松里中学校	心豊かに、よりよい自分をめざし学び合う生徒の育成

28	玉幡中学校	奉仕活動等を通して、豊かな情操を持つ心身ともに健全な生徒を育てる
29	白州中学校	自助・共助のための実践的防災教育を推進し、人道教育へとつなげる
30	武川中学校	自ら考え意欲的に学び伝え合う生徒の育成
31	大月東中学校	思いやりの心を育てよう
32	都留第一中学校	人間関係の充実とルールの定着によって教育課題を改善する
33	一宮中学校	環境整備やあいさつ運動を通して協働の精神と情操豊かな心を育てる
34	山梨南中学校	自ら学び、自ら考え、自ら進んで活動できる生徒の育成
35	山梨北中学校	自ら学ぶ力をつけ、意欲につながる活動ができる生徒の育成
36	北杜高等学校	「健康・安全」「国際理解・親善
37	笛吹高等学校	「貢献」～学校・地域から～
38	上野原高等学校	地域社会の問題に目を向け、認知症やフードバンクの活動を学ぶ
39	都留興譲館高校	社会問題と地域貢献
40	身延山高等学校	東日本大震災被災地ボランティア活動
41	かえで支援学校	つながる心～奉仕活動を通して～

(3) 青少年赤十字加盟校・園(所)

認定こども園(12園・所)	南アルプス市立豊小学校	南アルプス市立甲西中学校
貢川進徳幼稚園	南アルプス市立楡形西小学校	昭和町立押原中学校
進徳幼稚園	南アルプス市立落合小学校	中央市立田富中学校
聖愛幼稚園	南アルプス市立芦安小学校	中央市立玉穂中学校
あら川保育所	南アルプス市立白根飯野小学校	北杜市立明野中学校
和泉愛児園	南アルプス市立若草南小学校	北杜市立泉中学校
かほる保育園	甲斐市立双葉東小学校	北杜市立武川中学校
くだま保育園	甲斐市立竜王南小学校	北杜市立白州中学校
押原こども園	甲斐市立竜王東小学校	山梨市立山梨南中学校
みかさこども園	甲斐市立敷島小学校	山梨市立山梨北中学校
市川南稚園	甲斐市立竜王西小学校	甲州市立勝沼中学校
忍野村立忍野幼稚園	甲斐市立敷島南小学校	甲州市立松里中学校
なでしこ保育園	甲斐市立玉幡小学校	笛吹市立春日居中学校
幼稚園(3園)	北杜市立明野小学校	笛吹市立一宮中学校
城北幼稚園	北杜市立泉小学校	早川町立早川中学校
山梨市立つつじ幼稚園	北杜市立小淵沢小学校	都留市立東桂中学校
上野原幼稚園	北杜市立武川小学校	都留市立都留第一中学校
保育園(15園・所)	山梨市立日下部小学校	西桂町立西桂中学校
池田保育園	山梨市立後屋敷小学校	忍野村立忍野中学校

すみよし愛児園	山梨市立日川小学校	山中湖村立山中湖中学校
甲府市立甲運第一保育所	山梨市立山梨小学校	富士河口湖町立勝山中学校
甲府市立玉諸保育所	山梨市立八幡小学校	大月市立猿橋中学校
甲府市立中央保育所	山梨市立岩手小学校	大月市立大月東中学校
甲府市立中道保育所	山梨市立笛川小学校	甲斐市立玉幡中学校
ファミリー・ドゥ・フラワー保育所	甲州市立玉宮小学校	上野原市立秋山中学校
甲府市立北新保育所	甲州市立松里小学校	上野原市立上野原西中学校
宮前保育園	甲州市立井尻小学校	上野原市立上野原中学校
北杜市立白州保育所	甲州市立菱山小学校	小菅村立小菅中学校
泉保育園	甲州市立塩山南小学校	
忍野村立内野保育所	甲州市立塩山北小学校	高等学校（14校）
忍野村立忍草保育所	甲州市立東雲小学校	県立甲府南高等学校
第2なでしこ保育園	笛吹市立一宮南小学校	甲斐清和高等学校
つつしが崎学園	市川三郷町立市川東小学校	県立甲府工業高等学校
小学校（64校）	早川町立早川南小学校	県立韮崎工業高等学校
甲府市立湯田小学校	早川町立早川北小学校	県立北杜高等学校
甲府市立朝日小学校	都留市立東桂小学校	県立笛吹高等学校
甲府市立里垣小学校	道志村立道志小学校	県立増穂商業高等学校
甲府市立相川小学校	富士河口湖町立勝山小学校	県立峡南高等学校
甲府市立国母小学校	大月市立初狩小学校	県立身延高等学校
甲府市立北新小学校	大月市立七保小学校	身延山高等学校
甲府市立甲運小学校	大月市立猿橋小学校	県立吉田高等学校
甲府市立大里小学校	大月市立大月東小学校	県立富士北稜高等学校
甲府市立羽黒小学校	上野原市立上野原西小学校	県立都留興譲館高等学校
甲府市立石田小学校	上野原市立島田小学校	県立上野原高等学校
中央市立田富小学校	上野原市立秋山小学校	特別支援学校（6校）
中央市立田富北小学校	中学校（35校）	県立盲学校
中央市立田富南小学校	甲府市立南中学校	県立かえで支援学校
韮崎市立韮崎小学校	甲府市立南西中学校	山梨大学附属特別支援学校
韮崎市立韮崎北東小学校	甲府市立上条中学校	県立わかば支援学校
甲府市立新田小学校	南アルプス市立八田中学校	県立高等支援学校桃花台学園
甲府市立大國小学校	南アルプス市立芦安中学校	県立やまびこ支援学校
甲府市立舞鶴小学校	南アルプス市立白根勅使中学校	
甲府市立善誘館小学校	南アルプス市立若草中学校	
合計149校(園・所)		

(4) 青少年赤十字研究指定事業

平成30年度～令和元年度 武川小学校 武川中学校
令和元年度～令和2年度 早川南小学校 早川北小学校 早川中学校
令和2年度～令和3年度 初狩小学校 大月東小学校 大月東中学校

(5) 義援金・救援金等への協力

☆国内義援金 6校(園)

和泉愛児園、押原こども園、みかさこども園、羽黒小学校、大国小学校、身延山高等学校

☆NHK 海外たすけあい 11校(園)

和泉愛児園、池田保育園、くだま保育園、みかさこども園、城北幼稚園、湯田小学校、里垣小学校、上条中学校、北杜高校、甲府南高等学校、甲斐清和高校

★一円玉募金

青少年赤十字海外支援事業の財源 平成29年度から、ネパールとバヌアツを支援

- ・ネパール・・・持続可能な水と衛生プログラム
- ・バヌアツ・・・学校における防災減災プログラム

協力加盟校(園・所) 4校(園)

みかさこども園 武川小学校 泉小学校 松里中学校

★寄付金(支部活動資金)

協力加盟校(園・所) 3校

南中学校 八田中学校 松里中学校

5 献血事業について

血液製剤の安定供給体制を確保するために献血キャンペーンを実施し、県民の方々に献血に関する理解と協力を求めました。

キャンペーン名	月 日	会 場
愛の血液助け合いキャンペーン	令和2年7月23日(木)	イオンモール甲府昭和店
はたちの献血キャンペーン	令和3年1月10日(日)	イオンモール甲府昭和店

6 赤十字社旨普及活動について

(テーマ)『人間を救うのは、人間だ。 Our world. Your move.』

支部・病院・血液センターによる運動展開

(1) 広報活動

○赤十字運動月間 2020 の実施

・甲府駅ビルに懸垂幕の掲出

・赤十字運動月間「レッドライトアッププロジェクト 2020」の実施

○報道各社協力によるPR活動

○「赤十字やまなし」(事業報告兼広報)山梨県下全世帯30万部配布

○ホームページによる情報発信

○市町村広報誌の協力によるPR活動

(2) 日本赤十字社山梨県有功会

役員名

会 長	高野孫左エ門
副会長	進藤 中
	鬼頭 芳雄

会員数 270 名・社 (個人88名・法人182社)

年間行事

総会の開催 新型コロナウイルス感染症の蔓延状況に鑑み書面開催

仲間づくり運動と会員募集運動の推進

支部事業への協力(青少年赤十字活動への協力)

II 施設事業について

1 山梨赤十字病院

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の対応に明け暮れた1年であった。新型コロナウイルスの性質もわからないうちにダイヤモンドプリンセス号の救護活動から始まり、職員・施設の感染防御、行政検査への協力、疑義症・陽性患者の入院受入、他医療機関応援のための職員派遣など当院においても大きな混乱が発生した。

年明けから日本国内は変異株のコロナウイルスの蔓延により第3波から第4派の感染拡大が進み全国の主要都市においては断続的な蔓延防止等重点措置、等緊急事態宣言が発令され国内の感染拡大が深刻化している。

当医療区域においても感染者が繰り返し発生しており、当院はコロナ感染症の重点医療機関の機能を維持するための対応を推し進めている。

県内では3月より感染患者を受け入れる重点医療機関職員へのワクチン接種が開始され、今後当院は地元行政への協力体制を整備し順次地域住民へのワクチン接種を促進していく。

一方、国策にて今後の人口減少社会における医療体制の確保、地域の医療ニーズの変化に応じて集約と機能分化を進める地域医療構想の達成に向けた取り組みは、2025年を目標として着々と進行している。

新型コロナウイルス感染症の蔓延は驚異的な受診抑制がおり、患者側と医療ニーズに大きなギャップが生じていることが示された。また一部の病院に新型コロナウイルス感染症の軽症から重症までの患者が集中してベッドが逼迫する状況は、集約、機能分化が遅れている現状を明らかにした。コロナ禍によって2025年に向けた動きはさらに加速することが確定的であり、令和2年度はコロナ禍にありながらコロナ後の医療体制、病院のあり方を考えさせられた。

この状況のなか当院は地域で必要とされる病院であるため、また安定的な病院経営を維持するためコロナ禍のなかで臨機応変にニーズに対応した年度であった。

病院運用状況は以下のとおりです。

○ 医療供給体制

(1) 新型コロナウイルス感染症への対応

令和2年度は第1波～第3波の感染拡大で当医療区域内の感染者数は拡大した。当院は病院機能維持のためより強化な感染防護対策に努め、一般病棟の一部をコロナ病床として区画し新型コロナウイルス感染症患者対応に努めた。

入院患者の受入れとしてはコロナウイルス陽性患者数331人、疑似症患者数207人であった。

外来対応としては年度当初より帰国者・接触者外来を開設、富士東部保健所からの依頼を受けコロナ感染の疑いのある患者485人のPCR検査を実施、また、11月からは外来の一部改修工事を実施、陰圧の診察室を整備し感染予防に徹底した発熱者専門外来を整備し24時間体制での発熱患者の診療をおこない342人の受診者を受け入れた。

また、第3波では地元高校内でコロナ感染症が蔓延、保健所からの協力依頼により生徒全体のスクリーニング検査を実施することとなり、当院、富士吉田医師会、富士吉田市立病院の3施設で実

施し当院は178人の生徒のスクリーニング検査を実施した。

感染拡大の波の変化に対応をしいられた年度となった。

(2) 医師の働き方改革への対応

労働法規の改正により2024年4月以降「医師の年間の時間外労働960時間以下」が義務付けられ医師の労務管理の徹底、労働時間短縮を目的とした連続勤務時間制限や勤務インターバルなどの健康確保措置を含めた対応が施設管理者に求められることとなった。

当院はこの法律改正の対応として労働基準監督署と数回にわたり改正プランの調整を図り、令和2年6月より医師のシフト勤務制(変形労働勤務体制)を開始した。

宿直業務を夜間勤務へ変更しインターバルとして振替休日の取得が可能となるようにシフト勤務制(変形労働勤務体制)へ変更を図り、年10日以上の有給休暇の取得も実施し医師の働き方改革対応はクリアすることが出来た。また、チーム医療の組み立てを見直しコメディカルへのタスクシフティングの検討も開始した。

(3) 常勤医師の確保

常勤38名が確保され地域への安定した医療体制を提供する体制が整備された。医師を確保するためには新専門医制度が開始されるなか基幹病院である大学と実地研修する受入病院との密な連携が重要であり当院は研修体制を整備し初期研修・後期研修の研修医受入を実施した。

令和2年度の受入れは初期研修医2人、後期研修医8人であった。

(4) 外国人看護師受入れプロジェクトの推進

一般社団法人医療人材国際交流協会の外国人看護師就労支援プロジェクトに参加することで、積極的に外国人医療人材および介護人材の採用と活用に努め、看護・介護部門で不足している分野での就業可能な人材の選定と育成に努めた。

令和2年度は中国国籍の正看護師1人、准看護師1人の採用を実施した。

(5) 電子カルテシステムのリプレース

導入後8年が経過した電子カルテシステムのリプレースを実施した。質の高い医療の提供のため医療情報システムの構築は最重要課題である。今回導入システムのコンセプトとは「顧客の視点」として ①安全かつ質の高い医療の充実 ②患者サービスの向上 「医療者側の視点」として ①業務の効率化 ②医療過誤の防止 ③診療情報の二次利用 ④長期的な可用性の確保 「経営の視点」として ①病院経営状況の可視化 ②診療報酬改定や医療行政の動向に対応 ③地域医療連携機能の拡張とする。このコンセプトをベースとした山梨赤十字病院システム構築業務仕様書等を策定、プロポーザル方式による業者の選定を実施し決定、令和2年10月26日から本稼働を開始した。

(6) 二次輪番群体制の見直し

現在、富士医療圏の救急医番当番日は内科系当番日、外科系当番日を富士吉田市立病院と交代制で一年を通し365日実施している。年間を通しての救急医療体制を維持していくことは人員不足を抱える医療環境において今後大きな負担となってくる。慢性的な看護師不足、医師の働き方改革、2025年にむけた地域医療構想など地域の救急医療を担う医療機関としては不透明な対応を迫られている。

内科系、外科系当番日を1日に統合することで負担は発生するが救急当番日は半分となり体制

を整えやすくなるため富士吉田医師会と関係自治体と持続可能な診療体制を維持するための協議を開始した。

(7) 山梨県地域医療構想に向けた取り組み

厚生労働省は中長期的な人口減少・高齢化の進行を見据えつつ、今般の新型コロナウイルス感染症への対応により顕在化した地域医療の課題への対応を含め、地域の実情に応じた質の高い効率的に医療供給体制を構築する必要があるとして、地域医療構想の実現を図る観点から、地域医療構想調整会議の合意を踏まえて行う自主的な病床削減や病院の統合による病床廃止に取り組む際の財政支援を実施する。

全国の医療機関はコロナ禍で入院・外来患者数は受診抑制等のため大幅に減少し財政悪化に陥っている。当院は構想区域内の医療機関の動向や医療ニーズの変化をリサーチし病床の削減等も視野にいれ機能転換の推進を図り医療ニーズに合わせた病棟再編、外来機能の再構築を順次進める。

○ 赤十字施設としての取り組み

(1) 災害救護活動体制の整備

令和2年度も台風、豪雨、日照不足、猛暑、豪雪などの多くの異常気象、自然災害が発生した。また新型コロナウイルス感染症の蔓延などによりDMAT 隊の活動内容も顕著に変化しており多岐にわたる活動を実施した。

① 新型コロナウイルス感染症対策への医療連携協定

令和2年度は新型コロナウイルス感染症対応で富士・東部医療圏において5病院間(山梨赤十字病院・富士吉田市立病院、都留市立病院、大月市立中央病院、上野原市立病院)で感染拡大を可能な限り抑制し、医療崩壊を防ぎ、感染の状況に応じた医療体制を確保し、富士・東部地域の生命及び健康を保護することを目的とし、感染症の発生状況に応じた対策を実施するため医療連携協定を結び感染対策へ積極的に取り組みを行った。

② DMAT 要員の育成と活動の充実

新たに新型コロナウイルス感染症の対応など様々なケースに適時対応できる DMAT 隊の体制整備を図る。新型コロナウイルス感染症対応の蔓延で山梨県医療対策本部設置、DMAT による入院先調整が開始され当院からも DMAT 隊(医師1人、看護師2人)を派遣し対応にあたった。また施設内クラスターが発生し機能不全に陥った施設へ DMAT 隊(看護師2人)を派遣し対応にあたった。

2 山梨県赤十字血液センター

日本赤十字社では、平成24年度より血液事業の運営体制を広域化し、全国を7つのブロックに分け都道府県の枠を超えての需給体制を構築しており、「効率的な事業運営」、「血液製剤の安全性の向上」及び「安定供給の確保」が図られているところです。

山梨県赤十字血液センターについては、関東甲信越ブロック(1都9県)とともに血液法や薬機法などの関係法令を遵守した事業管理体制を構築して事業に取り組んでおります。

(1) 血液製剤の安定供給

令和2年度は、赤血球製剤は前年度比 0.2%減少、血漿製剤は 4.2%増加、血小板製剤は 10.6%増加しました。全体としては前年度比 5.0%増の供給となりました。

赤血球製剤は、累計では前年度並みでしたが、緊急事態宣言が発出された4~5月は前年度に比べ大きく減少しました。6月以降は一旦前年度並みの推移となりましたが、1月から3月は前年度を上回るなど、供給数が上下に大きく振れた一年でした。

血漿製剤は、赤血球製剤と同様に4~5月は前年度に比べ減少しましたが、6月以降は血漿交換療法に伴う需要が多かったため、前年度に比べ増加しました。

血小板製剤は、緊急事態宣言の発出による影響は少なく、12月までは前年度並みに推移していましたが、1月以降は造血幹細胞移植症例の増加に伴い大幅に増加しました。

このように、例年に比べ需要の上下動が激しい状況でしたが、1週間を基軸とした綿密な需要予測と広域需給管理体制のメリットを最大限に生かすことにより、過不足のない安定した供給ができました。

供給実績 (200mL献血由来製剤を1単位とする)

区分	全血製剤	赤血球製剤	血漿製剤	血小板製剤	合計
令和元年度実績	0	39,047	12,496	37,805	89,348
令和2年度実績	0	38,986	13,020	41,805	93,811
前年比	0%	99.8%	104.2%	110.6%	105.0%

(2) 献血者確保状況

令和2年度は、コロナ禍における献血者確保となり、特に緊急事態宣言が発出された4~5月は献血バスの受入れ先が中止となるなど、厳しい状況でした。また、山梨県での必要な献血量に加え、コロナ禍で減少した首都圏の献血量を補うために、昨年度より献血の目標量が増加しました。

これに対し、市町村献血やショッピングモールでの臨時的献血の実施、献血経験のある方へのハガキ・メールによる依頼などを行うことで、必要な献血量を確保できました。

特に献血ルームでは開所以来最多の21,653名の協力がありました。3密を回避するため予約献血を本格的に導入した結果、献血ルームの混雑を解消しつつも昨年度以上の献血者を受け入れることができました。

コロナ禍で全体の献血者数が減少していたことから、特に上半期は必要な献血量を確保するために、200mL 献血も積極的な受け入れを行いましたので、400mL献血者の全血献血に占める割合は、94.9%と昨年度に比べて1.0ポイント低下しています。

若年層献血の推進については、予定していた高校献血39校のうち8校が中止となりました。大学献血についてもリモート授業の推進のため校内に学生がおらず、ほとんどの大学で献血の実施は見送られています。

採血実績

(単位:人)

区分	200mL	400mL	成分	合計	計画人数	計画比
移動採血	1,137	15,806	0	16,943	15,769	107.4%
献血ルーム	97	7,059	14,497	21,653	18,481	117.2%
合計	1,234	22,865	14,497	38,596	34,250	112.7%

(3) 輸血用血液製剤の安全対策

従来から実施している献血受け入れ時の献血者の本人確認の実施など、「安全性の向上」に向けた8項目の対策を適切に実施しました。

(4) 各種キャンペーン・イベントの推進

新型コロナウイルス感染防止の観点から、献血会場でのイベント規模を縮小しながらも、若年層献血・複数回献血の推進に努め、成分献血・400mL献血の理解促進に主眼をおいたキャンペーンを実施しました。

実施月日	キャンペーン名	場所	内容	献血者数
6月14日	世界献血者デー	イオンモール 甲府昭和	街頭献血イベント	56人
7月23日 ～ 7月24日	愛の血液 助け合い運動 街頭献血 イベント	イオンモール 甲府昭和	合同街頭献血イベント	126人
11月3日	ヴァンフォーレ甲 府応援献血	イオンモール 甲府昭和	街頭献血イベント (小瀬スポーツ公園の代替)	65人
11月8日	マイクロ シクラメン献血	イオンモール 甲府昭和	街頭献血イベント (農業大学校提供)	68人

12月13日	クリスマス献血 キャンペーン	イオンモール 甲府昭和	学生推進協議会による 街頭献血イベント	75人
12月25日 ～ 1月3日 12/31と 1/1を除く	ハートフル・ コネクション キャンペーン	献血ルーム イオンモール 甲府昭和 南アルプス市役所	献血ルーム及び移動採血車 での献血キャンペーン	963人
1月10日 ～ 1月11日	はたちの献血	イオンモール 甲府昭和	街頭献血イベント	111人
2月21日 2月23日	ふじさん献血	イオンモール 甲府昭和	街頭献血イベント	125人
3月1日～ 4月11日	「ゆるキャン△」× 献血コラボ キャンペーン		ポスター・クリアファイルの作 成・配布、献血啓発	
通年	みんなの献血		各種キャンペーン、 CM 放送による若年層への 献血啓発	
通年	VF甲府との コラボ企画		ポスター・クリアファイルの作 成・配布、献血啓発	

(5) 医薬情報活動

① 医療機関への情報提供

輸血用血液製剤に関する情報提供について、下表のとおり情報媒体を県内医療機関へ配付しました。また、輸血管理部門担当者や医師・看護師等を対象とした説明会や医療機関の理解を得て院内輸血療法委員会へ出席し、情報提供をしました。

お知らせ

発行年月	内容
2020年7月	HEV-NAT 導入による輸血用血液製剤の更なる安全対策の実施について
2020年8月	血液製剤の添付文書改訂のお知らせ
2021年2月	日本赤十字社における TRALI 及び TACO の評価基準変更のお知らせ

輸血情報

発行年月	内容
2020年4月	診療報酬特別号2004 輸血用血液製剤の診療報酬及び薬価・医薬品コード・レセプト電算コード等について－令和2年4月現在－
2020年4月	2020年4月特別号 新型コロナウイルスと輸血に関する現時点での知見及び日本赤十字社の安全対策について
2020年8月	2008-170 「輸血療法の実施に関する指針」の一部改正について
2020年9月	2009-171 輸血用血液製剤との関連性が高いと考えられた感染症症例－2019年－
2020年9月	2009-172 赤十字血液センターに報告された非溶血性輸血副作用－2019年－
2020年12月	2012-173 輸血による細菌感染について(血小板製剤輸血実施時の注意点)

②医療機関との連携

医療機関との連携による輸血副作用情報の収集について、12施設から153件を収集しました。

③看護師対象の輸血基礎セミナーの開催

県内医療機関における輸血医療の向上を目的として看護師対象の輸血基礎セミナーをオンラインで開催しました。

開催年月日	内容	参加者
2020年9月29日	講演 「安全な輸血のための基礎知識」 実習 「輸血セットの取り扱い」(希望者のみ)	20施設 60名

④医療機関での説明会・輸血療法委員会への参加

輸血管理部門担当者や医師・看護師等を対象とした院内説明会を4回開催しました。また、医療機関の理解を得て院内輸血療法委員会へ3施設出席しました。

⑤医療機関との連絡調整会議の開催

山梨県では「山梨県合同輸血療法委員会」を設置し、血液製剤の適正使用の推進及び安全な輸血医療の確保に取り組んでおり、血液センターも委員として参加し協力しました。

開催年月日	会議名	内容
2020年8月	山梨県合同輸血療法委員会 (書面会議)	令和元年度事業報告について 令和2年度事業計画案について

2020年10月2日	第1回I&A委員会 (オンライン)	今年度の活動計画について
2020年12月	山梨県合同輸血療法委員会 委員長会議(書面会議)	令和元年度の県内の現状について 院内監査実施状況について 「輸血療法の実施に関する指針」の一部改正について
2021年1月22日	第2回I&A委員会 (オンライン)	オンライン視察の実施について
2021年2月12日	血液製剤の需給に係る連絡会議 (オンライン)	令和元年度の県内の現状について 院内監査実施状況について(情報共有) 血液センターからのお知らせ 他
2021年3月24日	第3回I&A委員会 (オンライン)	相互視察に向けて指摘事項等の確認
2021年3月25日	I&A委員会相互視察 (オンライン)	相互視察(対象:甲府共立診療所)

⑥山梨輸血研究会

山梨輸血研究会は、県内輸血医療関係者で構成されている研究会で、血液センターが事務局をしています。輸血医療の向上と情報交換を目的とし、研究会の開催や会報の発行、ホームページの管理を行っています。

第36回 山梨輸血研究会総会	開催日:令和3年2月6日(土)→5月22日(土)に延期 特別講演「山梨県におけるコロナ禍と血液事業」 山梨県赤十字血液センター所長 杉田 完爾
-------------------	---

(6)骨髄バンクへの協力状況

①ドナー(骨髄提供希望者)登録受入及び検体採血

②ドナー登録会への協力

③令和3年3月末現在 県内有効登録者数 2,268人 全国 530,953人

(7)会議、研修会等の開催と参加

コロナ禍により多くの会議を中止せざるを得ませんでした。実施可能な範囲内で県や献血関係諸団体等と連携し、研修会等を開催しました。

* 諸会議

実施月日	会議名	場 所	内 容
文書審議 4月24日	山梨県献血推進協議会総会		事業報告及び山梨県献血推進計画(案)の協議血液事業の現状
文書審議 6月2日	血液事業推進会議・市町村血液事業担当者会議		事業報告及び山梨県献血推進計画の説明、血液事業の現状、講話:非血縁骨髄移植と骨髄バンクドナー登録
3月15日	血液事業推進会議	山梨赤十字会館	山梨県献血推進計画(案)について、献血・供給状況、献血団体名簿について、各保健福祉事務所の献血推進状況について

* 研修会等への参加

実施年月日	研修会名	会 場	参加人数
2月3日	ライオンズクラブ研修会	甲府南ライオンズクラブ例会	10人
2月16日	ライオンズクラブ研修会	塩山ライオンズクラブ例会	20人
3月10日	ライオンズクラブ研修会	笛吹ライオンズクラブ例会	20人

* 若年者献血セミナー事業

実施月日	研修会名	会 場	参加人数
10月03日	献血に関するセミナー	山梨県立大学池田キャンパス 【ひらめき☆ときめきサイエンス】	18人
10月28日	献血に関するセミナー	高校芸術文化祭 JRC 部門	12人
11月11日	献血に関するセミナー	塩山高等学校	120人
12月03日	献血に関するセミナー	市川高等学校	132人
12月04日	献血に関するセミナー	白根高等学校	150人
2月10日	献血に関するセミナー	甲斐清和高等学校	146人

(8) 献血推進功績者に対する表彰

① 第56回献血運動推進全国大会

令和2年6月24日に北海道(札幌市民ホール)にて開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となりました。献血推進に功績のあった厚生労働大臣表彰(1団体)、厚生労働大臣感謝状(3団体)は、後日個別に表彰されました。

② 献血感謝のつどい in 山梨

新型コロナウイルス感染症の影響で中止となりました。献血推進に功績のあった山梨県知事表彰(5団体)は、後日個別に表彰されました。山梨県知事表彰(9個人)、日本赤十字社表彰(金色有功章57名・銀色有功章72名)は発送をもって表彰に替えております。

③ 多回献血者顕彰(献血現場にて記念品を贈呈)

献血回数	10回	817名
	30回	289名
	50回	172名
	50回以上	60名※
合計		1,338名

※令和2年11月より献血者顕彰規定が改正されました。